

# 2022年度 自己評価報告書

星稜中学校

## 「成果指標」について

それぞれの項目の成果指標は、学校生活アンケートと保護者アンケートの下記の質問番号の回答により、A:できた(80%以上)・B:概ねできた(70%以上)・C:やや不十分だった(60%以上)・D:不十分だった(60%未満)の4段階で達成度を判断する。

※学校生活アンケートの場合は「できている・概ねできている」を選択したパーセンテージ。

※保護者アンケートの場合は「当てはまる・どちらかと言えばあてはまる」を選択したパーセンテージ。

- 生徒指導 ① 学校生活アンケート① ② 学校生活アンケート②・③・④  
 ③ 学校生活アンケート⑤ ④ 学校生活アンケート⑥・⑦、保護者アンケート⑩
- 学習・進路指導 ① 保護者アンケート①・②・③ ② 保護者アンケート⑦ ③ 学校生活アンケート⑨・⑩
- 部活動 ② 学校生活アンケート⑪・⑫、保護者アンケート⑧

具体的取り組み		評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
<b>生徒指導 —基本的生活習慣の確立—</b>				
①	はじめある学校生活を送るために、登校時間を守り、授業開始のチャイムと同時に着席する習慣を身につけさせる。	成果指標 A:できた B:概ねできた C:やや不十分だった D:不十分だった	A	学校生活アンケート①② 94.5% 遅刻してはいけないという意識はしっかりと持っており、遅刻する生徒は少ない。
②	明るく元気な挨拶、正しい言葉遣いの励行により、礼儀作法を身につけさせる。	成果指標 A:できた B:概ねできた C:やや不十分だった D:不十分だった	A	学校生活アンケート②・③・④平均94.5% 部活動での指導もあって、日頃から元気のよいあいさつが大変良くできている。
③	掃除や身の回りの整理整頓に心がけ、環境美化に努めさせる。	成果指標 A:できた B:概ねできた C:やや不十分だった D:不十分だった	A	学校生活アンケート⑤ 90.2% 生徒自身の自己評価は高い。今後も校内の美化活動に積極的に励むよう指導する。
④	自転車マナー・ヘルメットの着用など交通法規を守り安全な登下校に努めさせる。	成果指標 A:できた B:概ねできた C:やや不十分だった D:不十分だった	A	学校生活アンケート⑦ 96.0% 4月に実施している交通安全教室・自転車通学説明会により、交通法規や安全なマナーについては成果が表れている。
<b>学習・進路指導 —6年間の一貫指導における難関大学への進学を目指す—</b>				
①	学力向上のために、習熟度別授業・実力試験等を積極的に実施するとともに、毎日の家庭学習を定着させる。	成果指標 A:できた B:概ねできた C:やや不十分だった D:不十分だった	C	学校評価アンケート①・②・③平均71% 子どもたちのやる気が引き出され、学習活動に前向きに取り組んでいるという質問では、各学年とも昨年度より低い評価であった。来年度は、定期試験前の質問講座の開講、終礼時に家庭学習項目の確認をさせることの徹底、学習意欲を高めるための学力向上コンテストの実施など、様々な企画を打ち出していく必要がある。
②	学習と部活動の両立を目指し、生徒がそれを実現できるように配慮し、指導するように努める。	成果指標 A:できた B:概ねできた C:やや不十分だった D:不十分だった	A	学校評価アンケート⑦ 85% 生徒は、しっかりと両立を目指して努力している。定期試験成績上位者の中にも部活動を行っている生徒が多数いる。

③	ICT教育の導入により、タブレットPCを授業や家庭学習で活用し、学習の効率向上に役立てるように努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校生活アンケート⑨平均95% タブレットPCを用いてMetaMoJiクラスルーム等を通じ課題に取り組めた。各教科の特性に応じ、効果的に利用できている。
具体的取り組み		評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
<b>部活動 —全国大会の出場を目指す—</b>				
①	部活動での全国大会出場を目標とする。	成果指標 A：4競技以上出場 B：2～3競技出場 C：1競技出場 D：全国大会出場なし	C	野球部 全日本少年軟式野球大会（8月）3位 文部科学大臣杯 全日本少年春季軟式野球大会 出場（3月）
②	部活動に対して十分な指導と支援を行なうことによって、生徒の技能が向上するとともに、人間的にも成長できるように努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	学校生活アンケート⑩ 81.5% 本校の部活動は、専門的な知識と経験を持った顧問が指導を行い北信越大会、全国大会へと導いている。
<b>生徒募集活動</b>				
①	学校要覧及び学校案内はもちろん、生徒募集に関わるすべての企画において、中高一貫教育を柱とする本校の新しい教育活動の認知度が高まる広報活動を行う。  【生徒募集に関わる企画】 ・学校要覧 ・学校案内（通常） ・学校案内（簡易版） ・学校見学会（2回） ・学校説明会 ・学校行事公開 ・公開授業	成果指標 A：4項目以上で達成できた B：3項目以上で達成できた C：2項目以下しか達成できなかった D：取り組めなかった	A	今年度も学校説明会・学校見学会の申し込みをすべてWebで行った。学校見学会（7, 11月）参加申込数187名（前年比86%）。学校説明会参加申込数243名（前年比122%）。参加数は昨年度より増加した。本校の新しい教育活動の認知度は高まっているといえる。学校の説明会を知ったきっかけをアンケートで尋ねたところ、リーフレット・Webサイト・友人知人の紹介が上位を占めた。
②	昨年度に引き続き、InstagramなどのWeb広告、雑誌への掲載広告を、中学生の入寮できる寮の完成に伴い全国の小学生対象に行う。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	4項目以上で達成できた。
③	学校説明会と学校見学会の参加者合計300名以上、志願者150名以上を目指す。	成果指標 A：志願者150名以上 B：志願者130～149名 C：志願者110～129名 D：志願者109名未満	B	学校説明会申込者数・学校見学会の参加数409名（前年比98%）。志願者数145名（前年比98%）。
④	小学校訪問・塾訪問を積極的に行い、関係強化に努める。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	感染症防止のため、今年度は小学校訪問・塾訪問を縮小して行った。金沢育英センター・東大セミナーでの説明会をそれぞれ春秋と2回行った。

### 《次年度における校務改善に向けて》

中高一貫校として新しく歩み始め、6年目を無事終えることができた。上記の評価報告では生徒指導、学習指導、部活動、生徒募集活動と大きく4つの観点から報告されているが、総じてA評価と結論づけておきたい。ただし、家庭学習を定着させることにおいてC評価があったため、試験2週間前に学力向上習慣を設け、家庭学習に取り組む姿勢の定着を図る取り組みを計画した。今後も、保護者アンケートや学校生活アンケートで、満足する評価が得られるように、各項目を検証し、教育活動を進めていく。加えて、県内初の取り組みとしての先取り教育や、グローバル、サイエンス、キャリアプログラムの検証を行い、より良くするための方策を考え実施していく。

次年度も保護者の方々のご理解とご協力を得ながら、新しい教育をリードする中高一貫教育校として勇猛精進していきたい。